

平成 31（令和元）年度

運営に関する計画

最終評価全体会

大阪市立東中本小学校

令和2年3月5日

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

〈全市共通目標〉

- ① 平成29年度～令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年95%にする。
- ② 毎年度末の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。
- ③ 每年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児数を前年度より減少または維持させる。
- ④ 每年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少または維持させる。

〈本校独自目標〉

施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現

- ① 平成29年度～令和2年末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にし、記録を5年間保存する。
- ② 防災に関する授業を実施し、避難訓練と連携した授業展開を実践する。

施策2 道徳心・社会性の育成

- ① 「あいさつ」指導に力を入れ、学校内外できちんと挨拶のできる児童を育てる。
- ② 全校アンケートで「人の役に立てるとうれしい」に肯定的な回答85%を維持できるようにする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

〈全市共通目標〉

- ① 令和2年度の小学校学力経年調査）における標準化得点を、平成29年度よりも向上させる。
- ② 小学校学力経年調査における正答率（得点）が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も平成29年度より減少させる。
- ③ 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合をいずれの学年も29年度より増加させる。
- ④ 令和2年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、毎年度、前年度より増加または維持させる。
- ⑤ 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の向上に向けて、特に課題であるシャトルランの平均の記録を、前年度より3ポイント向上させる。

〈本校独自目標〉

施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み

- ① 授業にICT機器を取り入れるなど、工夫をこらした授業実践を行い、全校アンケートで「授業がよく分かる」への肯定的な回答で80%を維持する。
- ② 体験活動を指導計画に取り入れ、児童の「体験活動を取り入れた学習が楽しい」と回答する児童を、90%以上を維持する。
- ③ 読書環境を整えるとともに読書指導に力を入れ全校アンケートで「読書をする時間が増えた」の回答が75%を超えるようにする。
- ④ 学習に苦手さを感じている児童への放課後の指導(アフタースクール)を行い、苦手意識をなくすために予習に取り組む等の手立てを施す。

施策6 國際社会において生き抜く力の育成

- ① 國際共通語である英語学習に全学年で取り組む。

施策7 健康や体力を保持増進する力の育成

- ① 新体力テストで大阪市平均程度の体力をもつ子を育てる。
- ② 全学年で、保健指導(性教育)を実施し、年間指導計画を更新していく。
- ③ 健康な食生活の確立に向けて、食育の生活化のための指導を実施する。
- ④ 基本的な生活習慣(手洗い・給食後のうがい等)に関する全校アンケートでの回答を80%以上にする。

年度目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

〈全市共通目標〉

- ① 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%にする。
- ② 年度末の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。
- ③ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児数を前年度より減少または維持させる。
- ④ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少または維持させる。

〈本校独自目標〉

施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現

- ① 今年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にし、記録を5年間保存する。
- ② 防災に関する授業を実施し、避難訓練と連携した授業展開を実践する。

施策2 道徳心・社会性の育成

- ① 「あいさつ」指導に力を入れ、学校内外できちんと挨拶のできる児童を育てる。
- ② 全校アンケートで「人の役に立てるとうれしい」に肯定的な回答85%以上を維持できるようにする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

〈全市共通目標〉

- ① 令和2年度の小学校学力経年調査)における標準化得点を、平成29年度よりも向上させる。
- ② 小学校学力経年調査における正答率(得点)が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も平成29年度より減少させる。
- ③ 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合をいずれの学年も29年度より増加させる。
- ④ 令和2年度の小学校学力経年調査(校内調査)における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、毎年度、前年度より増加または維持させる。
- ⑤ 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の向上に向けて、特に課題であるシャトルランの平均の記録を、前年度より3ポイント向上させる。

〈本校独自目標〉

施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み

- ① 授業にICT機器を取り入れるなど、工夫をこらした授業実践を行い、全校アンケートで「授業がよく分かる」への肯定的な回答で80%を維持する。
- ② 体験活動を指導計画に取り入れ、児童の「体験活動を取り入れた学習が楽しい」と回答する児童を、90%以上を維持する。
- ③ 読書環境を整えるとともに読書指導に力を入れ全校アンケートで「読書をする時間が増えた」の回答が75%を超えるようにする。
- ④ 学習に苦手さを感じている児童への放課後の指導(アフタースクール)を行い、苦手意識をなくすために予習に取り組む等の手立てを施す。

施策6 國際社会において生き抜く力の育成

- ① 國際共通語である英語学習に全学年で取り組む。

施策7 健康や体力を保持増進する力の育成

- ① 新体力テストで大阪市平均程度の体力をもつ子を育てる。
- ② 全学年で、保健指導(性教育)を実施し、年間指導計画を更新していく。
- ③ 健康な食生活の確立に向けて、食育の生活化のための指導を実施する。
- ④ 基本的な生活習慣(手洗い・給食後のうがい等)に関する全校アンケートでの回答を80%以上にする。

3 平成 31（令和元）年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 学校では今年度もいじめは早期発見して悪化を防止し、必ず解決しなければいけないという危機意識を持ちながら、常に情報を共有し、迅速に、組織的に対応を行うよう共通理解を図ってきた。5月当初の「いじめについて考える日」の前後に全クラスで授業を実施し、児童にいじめに対する意識変革ができるように指導した。また、いじめアンケートを学期ごとに行い、つかんだ事象については、実施後すぐに児童や保護者に100%対応し、解決にむけて担任だけでなく教職員全体で取り組んだ。学級の問題であっても担任任せにせず、月に一度の生活指導部会等で情報交換を行い、全体に共有を図り、細やかな対応を心がけてきた。その結果、安心して子供を学校に送り出せるという保護者からの言葉もいただいた。しかし、児童の言葉遣いなど、日常の生活における指導がまだまだ必要であり、いじめまでいかないまでも、心無い言葉を友だちにかけるなど、いじめにつながりそうな芽が見られる実態がある。また素直に指導を受け止められない児童もいるので、教職員との関係つくりも含めて、今後さらなる取り組みをしていきたい。
- ② きまりを守ることについては、アンケートでは昨年度より少し数値を下げた結果(91% ⇒ 84%)となったが、引き続き取り組んできた「時間を守る」ことはずいぶんと改善が見られてきた。「廊下を走らない」に関しても、日々の声かけや管理作業員が作製した立て看板等の効果ができてきている。次年度は一つずつの項目を独立させて、さらに子ども達の決まりを守る意識を高めたいと考えている。
- ③ 昨今、子ども達を取り巻く社会事情は決して良いとは言えず、児童の家庭生活を含め、専門のスクールカウンセラーや区の子育て支援室、また、児童相談所とも色々な面で情報の交換や指導についての相談、また、指導の共有などをすることが必要になっていている。月に一度従事するSCや子相、子育て支援室などと指導者とのつながりを築くことで、数々の問題を抱えた児童や不登校児に対して、校内、各機関と連携した対応をとることができた。ただ、不登校児が若干増加傾向にあり、問題点を洗い出し、よりよい対応をするとともに、保護者・担任・関係機関との連携をさらに深めていきたい。
- ④ 数年来の課題であった地域の皆様との地域合同震災訓練を実施することができた。子ども・保護者・地域と一緒に「命を守るために行動」をめあてに真剣に取り組むことができた。これまでにない規模で訓練ができ、防災に対する自助・共助などの意識も高まった。力を入れて取り組んだことにより、子どもたちにも防災の意識が身に付き、学期ごとに行っている校内の避難訓練の態度も大変素晴らしいかった。次年度、保護者への引渡しなど、今回の反省を生かして、より深い取組をしていきたい。
- ⑤ あいさつに関しては、月初めの児童会の取組、給食時の放送の効果もあり、大変よくなってきた。生活指導のアンケートでも、年間を通して90%以上の高い水準を維持することができている。3学期からのふわふわ言葉についての取組では朝会で個人名を入れて紹介したこと、児童に広げることができた。今後もみんなでほめ・認める機会を増やしていく。
- ⑥ 「人の役に立つ」ことに関して、委員会活動・縦割り活動・清掃活動等、児童がそれぞれの立場で熱心に取り組むことができた。アンケート結果でも、昨年度の90%以上を維持することができた。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 令和元年度の小学校学力経年調査（3～6年生で実施）における標準化得点をいずれの学年も前学年より向上させるという目当てにおいて、下記のような結果となった。

	国語	社会	算数	理科	合計
R1 3年	67.8	66.5	68.1	61.8	264.1
H303年	64.9	62.7	68.7	62.8	259.1
R1 4年	○72.3	○68.2	68.1	53.2	○261.8
H304年	69.6	71.9	67.7	63.4	272.6
R1 5年	68.3	55.0	58.2	○69.2	250.7
H305年	67.1	59.9	58.0	64.2	249.2
R1 6年	63.8	○62.7	○73.2	55.1	○254.8

正答率においての市平均との比較

学年		国語	社会	算数	理科	4教科 正答率合計
3年	校内 平均正答率	68.5	66.6	70.0	63.4	268.5
	市 平均正答率	67.9	66.7	68.2	62.0	264.7
4年	校内 平均正答率	70.9	68.0	75.4	50.8	265.0
	市 平均正答率	72.5	68.5	68.2	53.5	262.6
5年	校内 平均正答率	67.3	58.2	63.4	73.9	262.8
	市 平均正答率	68.4	55.2	58.3	69.5	251.3
6年	校内 平均正答率	52.7	56.1	65.6	45.9	220.4
	市 平均正答率	63.9	62.9	73.2	55.3	255.4

- ② 小学校学力経年調査における正答率（得点）が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。

	平成30年度	令和元年度
3年	22.2%	13.7%
4年	19.6%	8.5%
5年	23.4%	14.0%
6年	9.5%	36.0%

6年生以外で目当てが達成できた。今年度研究に取り組んだ算数科では6年生でも42.9%から28.0%と大きく減少した。

- ③ 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母体で比較し、いずれの学年も前年度より増加させる。

	平成30年度	令和元年度
3年	23.8%	32.9%
4年	32.1%	30.5%
5年	14.3%	35.1%
6年	27.0%	10.7%

6年生以外で目当てが達成できた。研究教科の算数科では6年生も15.2%から20.0%と前年度より大きく増加した。

- ④ 令和元年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させるについては平成30年度の78.3%から78.9%へと微増ではあるが増加した。普段の授業や委員会活動などでも児童が積極的に発表や発言をし、自分の考えを友達に広めようとする姿が見られている。
- ⑤ 令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の向上に向けて、課題であるシャトルランの平均の記録を、前年度より3ポイント向上させるについては、残念ながら男女ともに記録の伸びは見られなかった。男子H30→37.8回 R元→28.2回 女子平均はH30→32.3回 R元→26.2回と記録は伸びていない。原因を探りながら、次年度の取組を進める。
- ⑥ ユニバーサルデザインの考えに根差して、授業にICT機器を用いる場面が増え、より分かりやすく、児童の興味関心を高めるような授業展開がされた。児童アンケートの結果でも、「授業がよくわかる」と答えた児童が90%を超え、昨年度より向上した。委員会発表の際も、児童が自らパワーポイントで資料を作って発表に利用するなど、児童が機器の活用に慣れてきているように感じている。ICT教育に対しては次年度本庄中学校進学の3校が互いに情報交流しながら、指導進度をある程度統一できるようにしていく。
- ⑦ 今年度は朝学習の時間にはそれぞれの児童に対応できる学習プリントを用意し、児童自身が自分の力に合わせて学習を進められるようにしてきた。放課後には、低学力の児童の底上げを狙って、よりたくさんの指導者が同時に関わるよう指導致の時間帯や体制を組んだ。その結果、児童の意識も改善され、「苦手を放置したままにしない」と自らがんばる姿が見られるようになってきた。
- ⑧ 漢字と計算力の定着をはかるために、終業式や始業式に、力試しのテストを実施し、児童の意識付けをはかった。できなかつたところを長期休暇の間に復習し、休み明けに実力をためるというサイクルもでき、「学校は勉強をするところ」という意識が以前より育ってきたように感じている。
- ⑨ 体験活動の計画を年度ごとに更新し、児童により有益な情報や体験ができるようにしてきた。出前授業は、児童だけでなく、教員への研修にもなり、指導方法のスキルアップにもつながっている。児童アンケートでも95%の児童が体験活動や体験学習が楽しいと肯定的な意見が増えている。
- ⑩ 図書館の利用については、バーコード化に伴い、児童の貸し借りが簡単になった。金曜日は図書館補助員が配置されているので、「こんな本が読みたい」というリクエス

トに応えたり、児童がより興味を持つてもらえるように働きかけてもらったりした。3学期の読書週間にははぐくみネットの皆様の協力を得て、15分休みや昼休みにも図書館を開放することができた。次年度、さらなる読書環境の拡大を図っていきたい。

- ⑪ 英語モジュールの計画表が配布され、指導の系統性を意識して、指導ができるようになった。6分間という短い時間が功を奏して、集中して学習に取り組む姿がある。毎日継続しているからこそその成果があった。前期に比べて肯定的な回答が減っている。進度が進むにつれ、学習内容が難しくなり、楽しさを感じにくくなっているようである。指導の仕方をさらに工夫していく必要がある。
- ⑫ 給食指導について、色々な取り組みがあり、児童が栄養に关心を持って喫食するようになってきた。
- ⑬ 月々の手洗いピカピカデーの継続により、手洗い・うがいなど、自らが意識してできるようになってきている。

